

# 忠左衛門の子孫が来綾

## 特別展見学し先祖に思いはせる

市資料館が特別展示で取り上げている十倉谷領最後の代官・岩本忠左衛門（1824～189

1）の子孫が8日に来綾し、里町の同資料館などを訪れて先祖の素顔にふれた。



市資料館を訪れた忠左衛門の子孫たち。右から岩本義夫さん、智子さん、信子さん（里町で）

来綾したのは、忠左衛門のひ孫に当たる岩本義夫さん（72）＝東京都＝と、義夫さんの長女の智子さん（39）、次女信子さん（36）の3人。

義夫さんは、岩本家の長男で大阪府寝屋川市にいた兄の忠夫さん（故人）が所有していた古文書約1千点を、岩本家を代表して平成12年に市資料館へ寄贈した。

「子どものころは自分の先祖が代官だとは知らなかった」という義夫さんだが、食糧難の時には食糧を確保するため父英夫さん（故人）に連れられて所有地のあった口上林を訪れたこともある。

岩本家の墓地は今も十倉志茂町の如是寺にあり、智子さんや信子さんが子どものころには毎年夏に綾部を訪れていた。最近は何回が減ったものの義夫さんらは3年に1度は墓参りに来ている。3人は市資料館の近澤豊明館長の案内で展示会場を見学し、当時の十倉谷領の様子や忠左衛門の活躍ぶり、上林地域で教師をしていた忠左衛門の3男・忠焉（1857～1918）のことなどについて説明を受けた。

智子さんや信子さんは見学後、「祖母から先祖が代官だったことを聞かされ、テレビで見ると、な代官をイメージしていたが、実際は苦労が多かったことも分かり、親しみが持てた」と話し、義夫さんは「岩本家がこういう家柄だったのだ」と、しみじみ分かった」と、先祖の素顔について感想を述べていた。